

「じゃらん」 宿泊旅行調査 2010



昨年度1年間(2009年4月～2010年3月)の宿泊旅行実施率が低下し、延べ宿泊旅行者数は前年度比1,115万人減少。1回の宿泊旅行費用(大人1人あたり)も前年度比3,300円減の4万7,300円。不況色濃く、旅は「安・近」に。

2010年7月21日

株式会社リクルート(本社:東京都千代田区、代表取締役社長 兼 CEO: 柏木齊)の旅行カンパニーに設置されたじゃらんリサーチセンター(センター長: 沢登次彦)では、この度、全国約1万4,000人の宿泊旅行者を対象に、「じゃらん宿泊旅行調査2010」を実施しました。

この調査は、観光などを目的とした宿泊を伴う旅行実態を把握するために行っている調査で、出張・帰省・修学旅行などを除いたマーケットの動向を調べています。昨年度1年間(2009年4月～2010年3月)における国内での宿泊旅行の実態について、その行き先や回数、旅行費用などの調査をし、今年で6回目の実施となります。主な結果は以下の通りです。

<TOPICS> ※1 宿泊旅行・・・国内での宿泊を伴う旅行で、出張・帰省・修学旅行などを除く

●昨年度1年間(2009年4月～2010年3月)の宿泊旅行※1実施率が前年度比で2.8ポイント減少し、全国の延べ宿泊旅行者数は約1億6,200万人(前年度比6.4%減)に。延べ宿泊数は、約2億6,800万泊(前年度比8.4%減)。宿泊旅行実施率が最も低下したのは50～79歳のシニア層だった。

……………P3・4

●全国の宿泊旅行にかけられた費用総額(推計)は約7.7兆円(前年度比12.6%減)。1回(大人1人あたり)の宿泊旅行費用は前年度より3,300円減少。交通費の大幅減(自動車以外も)が影響。

……………P5

●昨年度の社会的出来事の中で、国内宿泊旅行意欲を高めたのは、「高速道路料金ETC休日特別割引制度(高速1,000円化)」「行きたくなった・計40.6%」。次いで「シルバーウィーク」(21.3%)、「定額給付金の給付」(15.2%)の順であった。

……………P6

●「延べ宿泊旅行者数が多い旅行先」上位の顔ぶれはほぼ変わらず。6年連続で1位は東京都。

……………P7

●「一人旅」は5年連続増加し12.9%。「小学生以下の子連れ家族旅行」は微増し12.4%。

……………P8

■《テーマ別・都道府県ランキング》

高知県、香川県の四国勢が「食」の頂点を奪還。沖縄県は全項目3位以内にランクイン。

・ 地元ならではのおいしい食べ物が多かった	1位	高知県	2位	香川県	3位	沖縄県
・ 魅力のある特産品や土産物が多かった	1位	沖縄県	2位	京都府	3位	高知県
・ 魅力的な宿泊施設が多かった	1位	沖縄県	2位	大分県	3位	熊本県
・ 地元の人のホスピタリティを感じた	1位	沖縄県	2位	鹿児島県	3位	岩手県
・ 子供が楽しめるスポットや施設が多かった	1位	千葉県	2位	沖縄県	3位	和歌山県
・ 若者が楽しめるスポットや施設が多かった	1位	千葉県	2位	沖縄県	3位	大阪府
・ 大人が楽しめるスポットや施設が多かった	1位	京都府	2位	沖縄県	3位	千葉県

……………P9・10

【本件に関するお問い合わせ先】

https://www.recruit.jp/support/inquiry_press.html

調査概要

◎調査名 じゅらん宿泊旅行調査2010

◎調査方法 インターネットによる調査

■1次調査

- ①調査目的 全国の宿泊旅行実施者を抽出することに加え、性・年代別の宿泊旅行実施率と社会的な出来事の影響を知るために実施した。
- ②調査時期 2010年4月2日（金）～10日（土）
- ③調査対象 全国20～79歳の男女（株式会社マクロミルの登録モニター）
- ④配信数 176,497件
- ⑤調査内容 昨年度1年間（2009年4月～2010年3月）の国内宿泊旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）の有無について
- ⑥回収数 70,000件（回収率39.7%）
- ⑦1次調査集計対象者数 20,000件

※2次調査において都道府県別、性・年代別の割付にあった回収が得られるように配信した。

・配信数と割付について

2次調査のセル別目標回収数は、H17国勢調査の都道府県別・性・年代別の人口に概ね従うように47都道府県を5ランクに分け、ランクごとに6:5:3:2:1の割合で、合計約1万4,000件の回収を目標とした。

2次調査の配信数は、ウェイトバック値のバランスをなるべく揃えるために、県別に均等割付ではなく、ランクを設けて割付を行った上で、1次調査の旅行実施者36,287件を都道府県ごとに分配し、サンプル数を割り付けて配信した。

※回収された70,000件のうち、都道府県別に割付を行い20,000件を抽出。性・年代別宿泊旅行実施率を算出。

■2次調査

- ①調査目的 全国の宿泊旅行実施者に対して、宿泊旅行の内容を知るために実施した。
 - ②調査時期 2010年4月7日（水）～17日（土）
 - ③調査対象 36,287件（うち、同居家族モニター641件）
 - ・1次調査において、昨年度1年間に国内宿泊旅行をした、と回答した人：35,646件
 - ・追加調査において、昨年度1年間に国内宿泊旅行をした、と回答した人のうち、調査協力が得られた60歳以上の家族本人：641件
- ※調査回収難度が高い60歳以上の回収数を上げるために追加調査を実施した。追加調査は株式会社マクロミルの登録モニターのうち60歳以上の家族と同居しているモニターを対象として該当家族が同席する上で回答という条件で実施。（回収数15,111件（配信数37,190件 回収率40.6%）、2次調査対象者数641件）
- ④配信数 20,791件（うち、同居家族モニター197件）

※配信数は対象者の中から都道府県別、性・年代別の割付にあわせてランダムに抽出した。
 - ⑤調査内容 昨年度1年間に実施したすべての宿泊旅行（出張・帰省・修学旅行などを除く）の行き先と回数について、また1人最大3件までの個別宿泊旅行について、具体的な内容を調査した。
 - ⑥回収数 13,889件（回収率66.8%）
 - ⑦有効回答数 13,855件（うち、同居家族モニター94件）

※集計・分析手法について

はじめに平成21年10月1日現在推計人口（総務省統計局発表）および1次調査結果を用いて、全国の宿泊旅行者の母集団を推計した。次に、2次調査の集計・分析にあたり、推計された宿泊旅行者の母集団における都道府県別、性・年代別構成比に基づいてウェイトバックを行い、構成比のずれを補正している。

また今回は60歳以上の登録モニター数が少ない県について、60歳以上の家族と同居している登録モニターに代理回答を実施、2次調査の調査対象として追加した。

◇じゃらんリサーチセンターの概要

「じゃらんリサーチセンター」は、国をはじめ地方自治体、観光関連事業者にとって、すぐ使える情報を広く提供し、かつ、日本の観光振興にさまざまな切り口から提案を行うことで、新しい観光ムーブメントを創出し、観光産業全体のさらなる活性化に寄与することを狙いとし、2005年8月より、株式会社リクルート旅行カンパニー内に設置されている組織です。

昨年度1年間(2009年4月～2010年3月)の宿泊旅行※1実施率が前年度比で大幅減少し(2.8ポイント減)、全国の延べ宿泊旅行者数※2は約1億6,200万人(前年度比6.4%減)、延べ宿泊数※3は約2億6,800万泊(前年度比8.4%減)となった。

昨年度1年間に宿泊旅行を行った人の割合は63.1%→60.3%と2.8ポイント減少した。宿泊旅行実施者の年間平均旅行回数は2.84回→2.79回とほぼ横ばい。この結果、延べ宿泊旅行者数は1,115万人減(前年度比6.4%減)となった。また宿泊旅行実施者の1回の旅行あたり平均宿泊数は1.68泊→1.65泊と、前年度度からほぼ横ばいとなったため延べ宿泊数も2,457万泊と大幅減少(前年度比8.4%減)となっている。

※1 宿泊旅行・・・国内での宿泊を伴う旅行で、出張・帰省・修学旅行などを除く

※2 延べ宿泊旅行者数・・・推計人口×宿泊旅行実施率×宿泊旅行実施者の年間平均旅行回数

※3 延べ宿泊数・・・延べ宿泊旅行者数×宿泊旅行実施者の1回の旅行あたり平均宿泊数

◇延べ宿泊旅行者数の推計方法

	H21.10.1現在推計人口	調査結果			推計値		
	人口 (万人) <A>	宿泊旅行実施率 (%) 	宿泊旅行実施者の年間平均旅行回数 (回) <C>	宿泊旅行実施者の1回の旅行あたり平均宿泊数 (泊) <D>	実宿泊旅行者数 (万人) A*B	延べ宿泊旅行者数 (万人回) A*B*C	延べ宿泊数 (万泊) A*B*C*D
20～34歳 / 男性	1,174	57.0	2.81	1.71	669	1,879	3,213
20～34歳 / 女性	1,127	65.0	2.56	1.57	733	1,876	2,945
35～49歳 / 男性	1,317	56.9	2.76	1.62	750	2,069	3,352
35～49歳 / 女性	1,295	57.8	2.46	1.57	748	1,841	2,891
50～79歳 / 男性	2,272	59.9	2.90	1.72	1,361	3,946	6,787
50～79歳 / 女性	2,468	63.1	2.97	1.64	1,558	4,628	7,589

↑上記セルの合計

↑上記合計

↑上記合計

↑上記合計

[10年]全国20～79歳男女	9,653	60.3	2.79	1.65	5,819	16,239	26,778
前年度との差		▲ 2.8	▲ 0.05	▲ 0.03	▲ 291	▲ 1,115	▲ 2,457
前年度比					▲ 4.8%	▲ 6.4%	▲ 8.4%

[09年]全国20～79歳男女	9,688	63.1	2.84	1.68	6,110	17,355	29,235
[08年]全国20～79歳男女	9,707	63.8	2.83	1.69	6,196	17,514	29,604
[07年]全国20～79歳男女	9,686	64.7	2.77	1.69	6,269	17,366	29,325
[06年]全国20～79歳男女	9,722	66.1	2.78	1.72	6,424	17,875	30,856
[05年]全国20～79歳男女	9,707	65.4	2.73	1.68	6,350	17,343	29,024

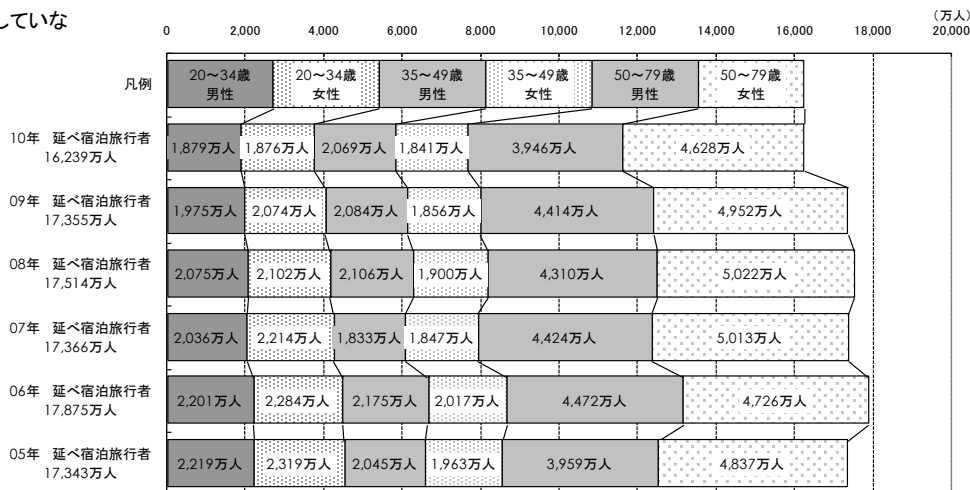
※推計値の算出は四捨五入していない実データで行っています。

※人口について、下記の統計値を用いて調査を行っています。

2010年 : H21年10月1日現在推計人口
 2009年 : H20年10月1日現在推計人口
 2008年 : H19年10月1日現在推計人口
 2007年 : H17年10月1日現在国勢調査人口
 2006年 : H16年10月1日現在推計人口
 2005年 : H15年10月1日現在推計人口

◇性・年代別 延べ宿泊旅行者数の推移(推計値)

※推計値の算出は四捨五入していない実データで行っています。



年代別に宿泊旅行実施率推移をみると、前年度比で最も減少幅が大きかったのは50～79歳(3.3ポイント減)だった。20～34歳は調査開始以来減少傾向で、前年度比でも2.7ポイント減となった。一方、性・年代別でみると、最も減少幅が小さかったのは35～49歳女性で、前年度比0.9ポイント減だった。

50～79歳の宿泊旅行実施率は、調査開始以来ほぼ横ばいに推移していたが、昨年度の宿泊旅行実施率は前年度比で3.3ポイント減少した。調査開始以来減少傾向が続く20～34歳では、宿泊旅行実施率が2.7ポイント減少している。性・年代別にて、最も旅行実施率の減少幅が大きかったのは、20～34歳男性で3.6ポイント減、一方、最も減少幅が小さかったのは35～49歳女性で、0.9ポイント減だった。

◇性・年代別 宿泊旅行実施率の推移

(%) (ポイント)

(調査年)	10年	09年	08年	07年	06年	05年	09年－10年
全体	60.3	63.1	63.8	64.7	66.1	65.4	▲ 2.8
男性	58.4	61.6	62.7	62.6	64.4	62.9	▲ 3.2
女性	62.2	64.5	64.9	66.8	67.7	67.8	▲ 2.3
20～34歳	60.9	63.6	64.0	64.0	64.0	65.2	▲ 2.7
35～49歳	57.4	59.2	59.5	60.9	63.5	62.2	▲ 1.8
50～79歳	61.6	64.9	66.1	67.1	68.6	67.2	▲ 3.3
20～34歳 / 男性	57.0	60.6	61.8	61.0	61.4	62.5	▲ 3.6
20～34歳 / 女性	65.0	66.8	66.3	67.1	66.7	68.0	▲ 1.8
35～49歳 / 男性	56.9	59.6	60.1	60.4	62.2	61.9	▲ 2.7
35～49歳 / 女性	57.8	58.7	58.9	61.5	64.8	62.6	▲ 0.9
50～79歳 / 男性	59.9	63.2	64.7	64.8	67.4	63.8	▲ 3.3
50～79歳 / 女性	63.1	66.5	67.3	69.2	69.7	70.3	▲ 3.4

【参考】宿泊旅行の年間平均旅行回数(性・年代別結果)

(回)

※宿泊旅行実施者ベース

(調査年)	10年	09年	08年	07年	06年	05年
全体	2.79	2.84	2.83	2.77	2.78	2.73
男性	2.84	2.88	2.83	2.77	2.87	2.74
女性	2.74	2.80	2.83	2.76	2.70	2.73
20～34歳	2.68	2.68	2.67	2.61	2.66	2.61
35～49歳	2.61	2.58	2.65	2.46	2.70	2.65
50～79歳	2.94	3.05	2.99	3.00	2.88	2.84
20～34歳 / 男性	2.81	2.69	2.70	2.59	2.68	2.62
20～34歳 / 女性	2.56	2.67	2.65	2.64	2.65	2.60
35～49歳 / 男性	2.76	2.69	2.74	2.46	2.85	2.71
35～49歳 / 女性	2.46	2.47	2.56	2.46	2.56	2.60
50～79歳 / 男性	2.90	3.08	2.94	3.04	2.99	2.82
50～79歳 / 女性	2.97	3.02	3.03	2.96	2.79	2.85

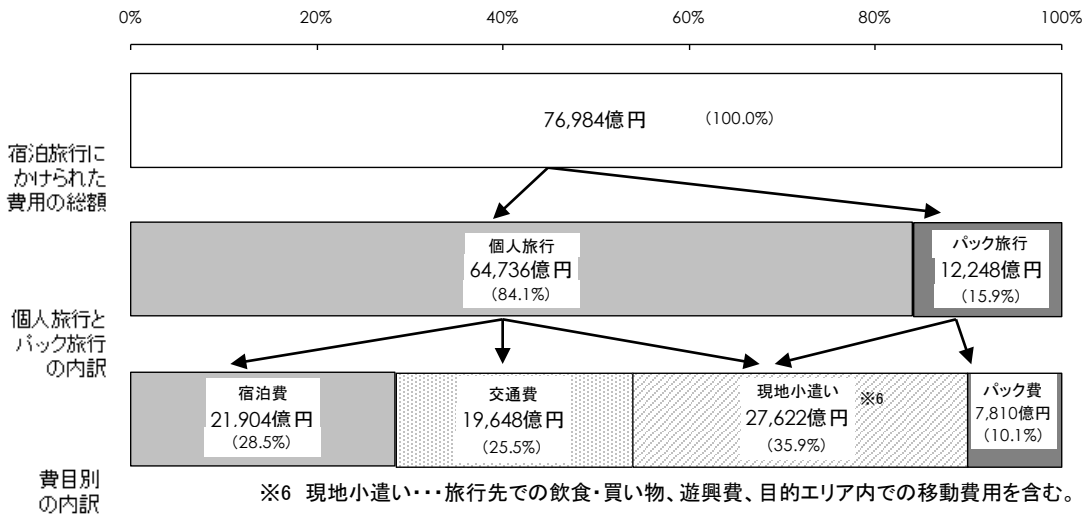
TOPIC 宿泊旅行にかけられた費用

全国の宿泊旅行にかけられた費用総額は約7.7兆円と調査開始以来、過去最低。1回(大人1人あたり)の宿泊旅行にかけた費用は、前年度より3,300円減少し4万7,300円に。交通費の減少幅が大きく、「安・近」の旅行傾向に。

1回あたりの宿泊旅行にかかる費用※4が50,600円→47,300円と前年度比で3,300円減少。内訳をみると、個人旅行※5における交通費15,300円→13,700円と1,600円減少、宿泊費も16,100円→15,300円へ800円減少。旅行先に行くために主に利用した交通手段(一次交通)別にみると、自家用車以外の交通機関利用者でも交通費は大幅減。不況を背景に「安・近」の旅行へシフトしたことがうかがえる。

※4 1回の宿泊旅行にかけられた1人あたり平均費用・・・1回の宿泊旅行にかけた費用について、個人旅行の場合、1人あたりの宿泊費・交通費・現地小遣いの合計、バック旅行の場合、1人あたりのバック費・現地小遣いの合計。
20歳未満の子供を連れた旅行の場合は、全員でかかった費用を同行した大人の人数で割っている。
※5 個人旅行・・・個人で宿を手配した旅行で、旅行会社を通して宿を手配した場合も含む。

◇宿泊旅行にかけられた費用総額(推計値)



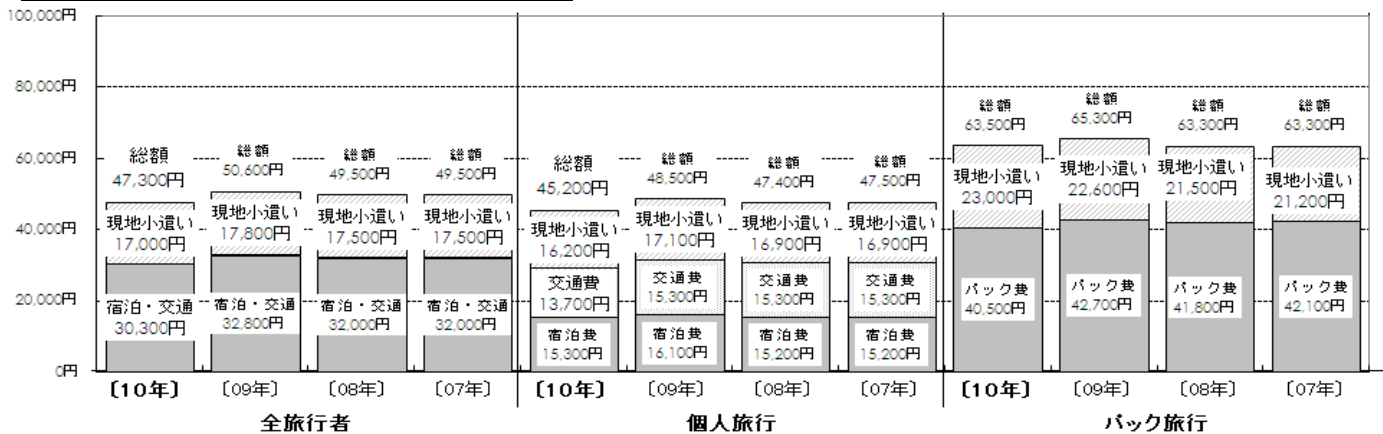
〈参考〉

05年～10年比較 (推計値)

宿泊旅行にかけられた費用の総額(億円)	
10年	76,984
09年	88,076
08年	86,781
07年	86,180
06年	87,889
05年	87,835

◇1回の宿泊旅行にかかる費用(大人1人あたり)

※金額については、百の位までの四捨五入で示しているため、合計が合わない場合があります。



＜全国の宿泊旅行費用総額の推計方法＞

- ①集計データより全国の性・年代別の個人旅行とバック旅行の延べ宿泊旅行者数を推計
- ②全国の性・年代・手配方法(個人orバック)別の旅行費用の平均値(単価)を算出
- ③全国の性・年代・手配方法別の延べ宿泊旅行者数に単価を乗じ、性・年代・手配方法別の費用総額を算出
- ④性・年代別の費用総額の結果を積み上げて全国の宿泊旅行費用総額を算出

〈参考〉一次交通手段別 - 個人旅行費用

※ベース: 宿泊旅行件数

		個人旅行				
		総額	宿泊費	交通費	現地小遣い	
全体	10年	45,200	15,300	13,700	16,200	
	09年	48,500	16,100	15,300	17,100	
	前年との差	▲ 3,300	▲ 800	▲ 1,600	▲ 900	
一次交通手段	自家用車	10年	31,000	14,100	5,800	11,100
	09年	34,200	14,900	7,100	12,200	
	前年との差	▲ 3,200	▲ 800	▲ 1,300	▲ 1,100	
飛行機	10年	88,500	21,700	36,100	30,700	
	09年	89,900	22,100	38,200	29,500	
	前年との差	▲ 1,400	▲ 400	▲ 2,100	1,200	
新幹線・特急列車	10年	60,100	16,100	22,700	21,200	
	09年	62,500	16,700	23,600	22,200	
	前年との差	▲ 2,400	▲ 600	▲ 900	▲ 1,000	

昨年度の社会的出来事のうち、国内旅行意欲を高めたのは「高速道路料金のETC休日特別割引制度(高速1,000円化)」(行きたくなった・計40.6%)。次いで「シルバーウィーク」(21.3%)、「定額給付金の給付」(15.2%)。

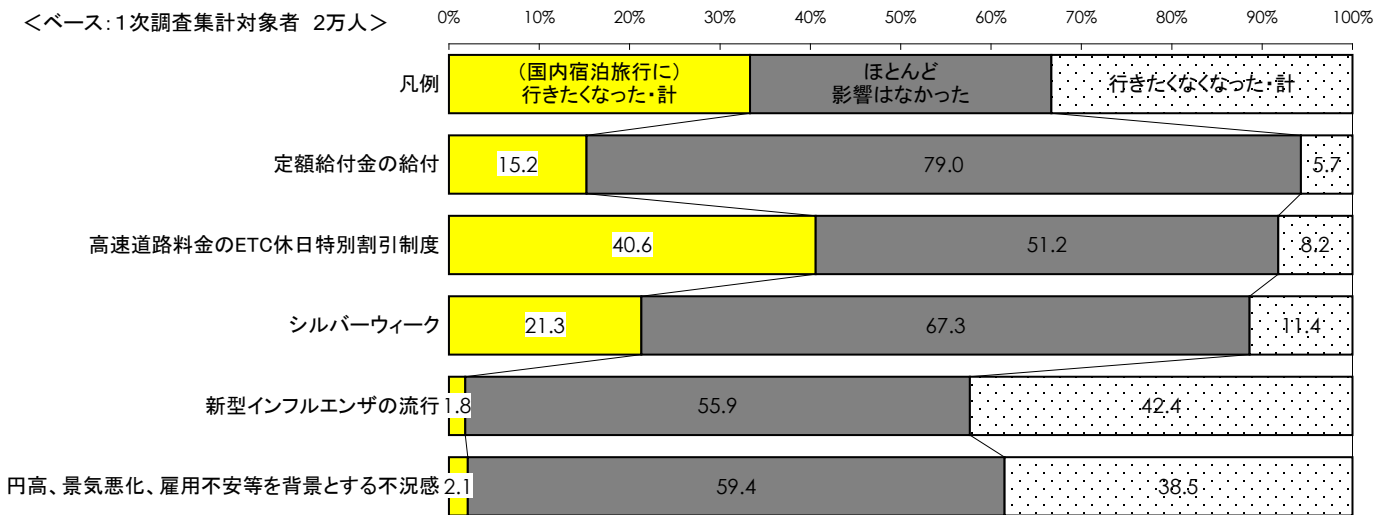
年代別にみると、高速1,000円化に対するプラス反応の割合が最も大きかったのは、20~34歳と35~49歳で45%前後。「シルバーウィーク」は20~34歳で30.2%、35~49歳で23.3%にとどまった。一方、「不況感」に対するマイナス反応は、男女別にみると男性36.0%に対し、女性は41.0%と、女性の方が強い影響を受けている。年代別では、35~49歳で最も高く42.5%。性・年代別にみると、一番影響が薄かったのは20~34歳男性で32.0%で、最も高かった35~49歳女性(45.7%)と13.7ポイントの開きがある。

※行きたくなった・計:「とても行きたくなった」「やや行きたくなった」の計

※行きたくなかった・計:「行きたくなかった」「やや行きたくなかった」の計

◇国内宿泊旅行に対する社会的な出来事の影響

<ベース:1次調査集計対象者 2万人>



【参考】目的地に着くまでに利用した主な交通手段(単一回答)

※旅行件数ベース (%)

	計	飛行機	新幹線・特急列車	新幹線・特急列車以外のJR・私鉄・地下鉄等	船・フェリー	高速バス	貸切バス・観光バス	路線バス	自家用車	レンタカー	その他
10年	100.0	17.2	16.9	7.6	0.9	3.7	4.8	0.3	45.7	1.9	1.0
09年	100.0	17.9	18.4	7.1	1.1	4.0	5.0	0.4	43.6	1.8	0.8

◇(属性別)国内宿泊旅行に対する社会的な出来事の影響

(%)

<ベース:1次調査集計対象者 2万人>

	社会的出来事の影響	属性別	属性別											
			全体	男性	女性	20~34歳	35~49歳	50~79歳	20~34歳 / 男性	20~34歳 / 女性	35~49歳 / 男性	35~49歳 / 女性	50~79歳 / 男性	50~79歳 / 女性
	定額給付金の給付	行きたくなった・計	15.2	13.6	16.8	16.8	17.8	13.1	14.1	19.5	16.5	19.1	11.6	14.4
	高速道路料金のETC休日特別割引制度	行きたくなった・計	40.6	41.0	40.2	45.4	44.7	36.0	42.6	48.2	45.1	44.4	37.8	34.4
	シルバーウィーク	行きたくなった・計	21.3	21.1	21.5	30.2	23.3	16.0	28.4	32.1	22.9	23.6	16.3	15.7
	新型インフルエンザの流行	行きたなくなかった・計	42.4	36.5	48.1	43.0	45.3	40.5	35.4	50.9	38.1	52.6	36.2	44.5
	円高、景気悪化、雇用不安等を背景とする不況感	行きたなくなかった・計	38.5	36.0	41.0	35.9	42.5	37.6	32.0	40.0	39.3	45.7	36.1	39.0

0.0 全体平均より5ポイント以上差がある項目 0.0 全体平均より3ポイント以上差がある項目

「延べ宿泊旅行※者数の多い旅行先」上位の顔ぶれは、ほとんど変わらず。
6年連続で1位「東京都」、2位「北海道」。

「延べ宿泊旅行者数の多い旅行先」、「宿泊旅行にかけられた費用総額の多い旅行先」トップ10の顔ぶれのほとんどは、前年度と変わらなかった。「延べ宿泊旅行者数の多い旅行先」トップ10の中で順位を上げたのは、「長野県」(4位→3位)、「福岡県」(11位→10位)。前年10位だった「沖縄県」は11位に。

「宿泊旅行にかけられた費用総額の多い旅行先」トップ10の中で順位を上げたのは、「神奈川県」(6位→5位)、「長野県」(8位→7位)、「兵庫県」(11位→10位)だった。

※出張・帰省・修学旅行などによる宿泊旅行は含まない。

※1回の旅行において複数の都道府県に宿泊した場合、それぞれの都道府県に旅行回数1回とカウントしている。

◇都道府県別の延べ宿泊旅行者数(推計値)

※上位10都道府県

全体						
2010 推計値	順位変動	2009 推計値	2008 推計値	2007 推計値	2006 推計値	2005 推計値
全 国		17,355万人	17,514万人	17,366万人	17,875万人	17,343万人
1位 東京都	←	(1位 1,734万人)	(1位 1,770万人)	(1位 1,610万人)	(1位 1,629万人)	(1位 1,589万人)
2位 北海道	←	(2位 1,201万人)	(2位 1,224万人)	(2位 1,298万人)	(2位 1,376万人)	(2位 1,454万人)
3位 長野県	↑	(4位 914万人)	(3位 981万人)	(3位 946万人)	(3位 1,009万人)	(3位 1,063万人)
4位 静岡県	↓	(3位 961万人)	(5位 936万人)	(4位 877万人)	(4位 986万人)	(4位 942万人)
5位 神奈川県	←	(5位 860万人)	(4位 959万人)	(5位 823万人)	(5位 887万人)	(5位 879万人)
6位 大阪府	←	(6位 744万人)	(7位 719万人)	(7位 752万人)	(7位 727万人)	(7位 678万人)
7位 京都府	←	(7位 740万人)	(6位 760万人)	(6位 767万人)	(6位 754万人)	(6位 749万人)
8位 千葉県	←	(8位 702万人)	(8位 693万人)	(8位 659万人)	(8位 670万人)	(8位 650万人)
9位 兵庫県	←	(9位 546万人)	(9位 576万人)	(9位 587万人)	(10位 574万人)	(10位 530万人)
10位 福岡県	↑	(11位 523万人)	(11位 510万人)	(10位 557万人)	(13位 520万人)	(11位 463万人)

◇宿泊旅行にかけられた費用総額(推計値)

※上位10都道府県

全体						
2010 推計値	順位変動	2009 推計値	2008 推計値	2007 推計値	2006 推計値	2005 推計値
1位 東京都	←	(1位 11,763億円)	(1位 11,992億円)	(1位 10,950億円)	(1位 11,013億円)	(1位 11,769億円)
2位 北海道	←	(2位 8,525億円)	(2位 8,632億円)	(2位 9,053億円)	(2位 9,664億円)	(2位 9,992億円)
3位 沖縄県	←	(3位 5,586億円)	(3位 5,344億円)	(3位 4,661億円)	(3位 5,097億円)	(5位 4,244億円)
4位 京都府	←	(4位 4,464億円)	(4位 4,351億円)	(4位 4,510億円)	(4位 4,471億円)	(4位 4,292億円)
5位 神奈川県	↑	(6位 3,709億円)	(5位 4,127億円)	(7位 3,546億円)	(7位 3,566億円)	(6位 3,823億円)
6位 大阪府	↓	(5位 4,016億円)	(6位 3,833億円)	(5位 3,943億円)	(5位 3,885億円)	(7位 3,798億円)
7位 長野県	↑	(8位 3,462億円)	(7位 3,716億円)	(6位 3,857億円)	(6位 3,870億円)	(3位 4,452億円)
8位 静岡県	↓	(7位 3,466億円)	(8位 3,385億円)	(8位 3,219億円)	(8位 3,436億円)	(8位 3,774億円)
9位 千葉県	←	(9位 3,324億円)	(9位 3,262億円)	(9位 3,074億円)	(10位 3,252億円)	(9位 3,089億円)
10位 兵庫県	↑	(11位 2,438億円)	(11位 2,432億円)	(11位 2,649億円)	(11位 2,547億円)	(10位 2,454億円)

<都道府県別の宿泊旅行費用総額の推計方法>

- ①集計データより、都道府県別に、性・年代別の個人旅行とパック旅行の延べ宿泊旅行者数を推計
- ②都道府県別に、性・年代・手配方法(個人orパック)別の旅行費用の平均値(単価)を算出
- ③都道府県別に、性・年代・手配方法別の延べ宿泊旅行者数に単価を乗じ、性・年代・手配方法別の費用総額を算出
- ④都道府県別の費用総額について、性・年代別の費用総額の結果を積み上げて算出

<参考>延べ宿泊旅行者増減数(推計値)

※上位5都道府県

全体	
09年→10年増減数	
1位 青森県	32万人
2位 鳥取県	28万人
3位 埼玉県	24万人
4位 岐阜県	15万人
5位 兵庫県	12万人
5位 徳島県	12万人

<参考>費用総額増減額(推計値)

※上位5都道府県

全体	
09年→10年増減額	
1位 兵庫県	176億円
2位 青森県	174億円
3位 鳥取県	153億円
4位 埼玉県	104億円
5位 岐阜県	51億円

TOPIC 宿泊旅行の同行形態

「一人旅」は調査開始以来、5年連続増加し12.9%。「小学生以下の子連れ家族旅行」は前年度より微増し、12.4%に。

全体的な構成比率の傾向は変わらず、最も割合が高いのは「夫婦二人での旅行」となっている。年々減少傾向にあった「小学生以下の子連れ旅行」が12.4%と、前年より微増し、下げ止まりを見せた。一方、前年「小学生以下の子連れ旅行」の比率と逆転した「一人旅」は5年連続増加し12.9%となった。

※出張・帰省・修学旅行などによる宿泊旅行は含まない。

◇宿泊旅行の同行形態

<ベース: 延べ宿泊旅行件数>

(%)

	一人旅	恋人との旅行	夫婦二人での旅行	小学生以下連れ家族旅行	中学生以上連れ家族旅行	親を連れて家族旅行	その他の家族旅行	友人との旅行	団体旅行	その他
[10年] 全体	12.9	7.4	24.3	12.4	3.7	7.7	9.3	15.2	5.2	2.0
[09年] 全体	12.5	7.4	24.2	12.0	3.6	7.6	9.3	15.3	5.8	2.2
[08年] 全体	12.0	7.3	23.8	12.4	3.7	7.2	9.3	15.9	6.1	2.2
[07年] 全体	11.2	7.7	24.0	12.8	3.5	7.1	9.5	16.4	5.7	2.2
[06年] 全体	10.8	7.7	23.6	13.5	3.7	7.0	9.5	15.6	6.4	2.1
[05年] 全体	10.5	8.1	22.4	14.6	4.3	7.3	8.6	15.3	5.8	3.0

(%)

性・年代別内訳	性別	[10年]									
		一人旅	恋人との旅行	夫婦二人での旅行	小学生以下連れ家族旅行	中学生以上連れ家族旅行	親を連れて家族旅行	その他の家族旅行	友人との旅行	団体旅行	その他
20~34歳	男性	21.6	21.7	10.6	8.5	0.1	8.7	2.5	16.7	9.0	0.4
	女性	10.3	17.8	14.5	15.2	0.1	12.9	5.4	19.2	3.4	1.2
35~49歳	男性	16.7	7.7	14.4	29.8	4.8	7.5	3.2	9.6	5.6	0.8
	女性	7.4	5.5	18.0	33.6	7.2	9.7	5.1	9.8	1.8	1.9
50~79歳	男性	14.1	3.2	37.9	4.2	4.9	4.6	9.6	12.1	7.5	1.8
	女性	10.3	1.4	29.5	3.0	3.7	6.8	17.9	20.2	3.7	3.6

※グラフ中の略記について

【略記】

恋人との旅行

小学生以下連れ家族旅行

中学生以上連れ家族旅行

団体旅行

【実際の選択肢】

: 恋人との2人での旅行

: 小学生以下の子供を連れて家族旅行

: 中学生以上20歳未満の子供を連れて家族旅行

※小学生以下の子供も連れてくる場合は「小学生以下の子供を連れて家族旅行」に回答
: 職場やサークルなどでの団体旅行

■地元ならではのおいしい食べ物が多かった

(単位:%)

ー 1位:高知県、2位:香川県、3位:沖縄県

高知県は「カツオ」香川県は「讃岐うどん」の圧倒的
支持で四国勢が上位を奪還。3位沖縄県は「沖縄そば」、
「ゴーヤチャンプル」など豊富な郷土料理で3位に。

全国的な傾向として、刺身・魚介類一般・カニ・ウニ・エビな
ど、地元でとれる新鮮な海の幸、ブランド牛肉が各地で挙げられ
ている。また「そば」「ラーメン」「うどん」などご当地麺も多
く挙げられている。宿の外で食べる昼食の満足度を上げる施策も
重要であることがうかがえる。

2010 順位		2009 順位	
全体平均	56.0	全体平均	54.1
1位 高知県	80.8	1位 沖縄県	72.0
2位 香川県	74.6	2位 高知県	71.5
3位 沖縄県	71.2	3位 香川県	70.8
4位 北海道	70.6	4位 鹿児島県	69.9
5位 山形県	70.4	5位 北海道	69.8
6位 長崎県	69.6	6位 福井県	69.2
7位 宮城県	68.7	7位 宮城県	68.2
8位 鹿児島県	68.6	8位 山形県	67.6
9位 富山県	67.9	9位 長崎県	67.4
10位 福井県	67.6	10位 青森県	66.5

■魅力のある特産品や土産物が多かった

(単位:%)

ー 1位:沖縄県、2位:京都府、3位:高知県

黒糖や紅芋など独特の食材が強い沖縄県が1位。次い
で、漬物や抹茶など定番商品が強い京都府が続く。3位
の高知県は、海産物と柑橘類の加工品が強い。

第1位となった沖縄県では紅芋、雪塩、黒糖等、独特の特産品
生かした商品、「琉球ガラス」などが並ぶ。第2位の京都府では
「漬物」「八ツ橋」など定番商品が根強い人気。高知県は「カツ
オ」、柚子ほか柑橘類だけでなく「坂本竜馬グッズ」などブーム
に乗った商品も人気。

2010 順位		2009 順位	
全体平均	44.9	全体平均	41.6
1位 沖縄県	67.7	1位 沖縄県	68.9
2位 京都府	65.7	2位 鹿児島県	59.9
3位 高知県	61.0	3位 京都府	59.6
4位 北海道	59.9	4位 高知県	58.9
5位 鹿児島県	59.8	5位 長崎県	57.0
6位 長崎県	58.1	6位 北海道	56.1
7位 香川県	56.7	7位 青森県	53.1
8位 山形県	53.2	8位 宮崎県	52.2
9位 宮崎県	52.8	9位 石川県	50.7
10位 宮城県	51.8	10位 宮城県	49.9
10位 石川県	51.8		

■魅力的な宿泊施設が多かった

(単位:%)

ー 1位:沖縄県、2位:大分県、3位:熊本県

沖縄県は、青い海が見えるリゾートホテルが人気。
今回は大分県、熊本県が、前年度2位の千葉県を抑
えてランクアップ。良質な温泉が支持されていた。

上位にランクインしている都道府県は、宿泊施設の固有名詞よ
りエリア名や温泉地名自体が挙げられており、エリア全体のブラ
ンドが強いことがうかがえる。一方、リピーターが多いエリアに
関しては、老舗宿の固有名詞が強い傾向にある。

2010 順位		2009 順位	
全体平均	39.4	全体平均	36.6
1位 沖縄県	58.4	1位 沖縄県	55.6
2位 大分県	54.6	2位 千葉県	51.5
3位 熊本県	50.6	3位 大分県	49.7
4位 千葉県	49.6	4位 熊本県	45.3
5位 鹿児島県	47.6	5位 長崎県	44.0
6位 神奈川県	45.6	6位 石川県	43.1
7位 長崎県	45.4	7位 北海道	41.9
8位 北海道	45.1	8位 鹿児島県	41.4
9位 群馬県	44.8	9位 神奈川県	41.2
10位 山形県	44.3	10位 和歌山県	40.5

■地元の人へのホスピタリティを感じた

(単位:%)

ー1位:沖縄県、2位:鹿児島県、3位:岩手県

5年連続1位の沖縄県、4年連続2位の鹿児島県が上位。
岩手県は前年の18位から3位に大きくランクアップ。

前年度と同じく第1位の沖縄県が、第2位以下を14ポイント以上離
す結果となった。全体的な傾向として重視されていたのは宿泊施設、
交通機関、観光施設だけでなく、散策中に触れ合う飲食店やスー
パー、ガソリンスタンド、一般人との交流も挙げられていた。

※今回よりフリーコメントの回答を設定。(「ホスピタリティを感じた場所」)

2010 順位		2009 順位	
全体平均	23.4	全体平均	25.5
1位 沖縄県	51.7	1位 沖縄県	56.4
2位 鹿児島県	36.9	2位 鹿児島県	40.6
3位 岩手県	33.1	3位 秋田県	37.9
4位 山形県	32.4	4位 高知県	35.3
5位 高知県	32.3	5位 宮崎県	34.6
6位 京都府	31.6	6位 京都府	31.6
7位 青森県	31.1	7位 青森県	31.5
8位 秋田県	30.5	7位 熊本県	31.5
9位 熊本県	30.0	9位 新潟県	30.9
10位 宮崎県	29.6	10位 奈良県	30.8

(単位:%)

■子供が楽しめるスポットや施設が多かった

ー 1位:千葉県、2位:沖縄県、3位:和歌山県

断トツの1位は千葉県。次いで「沖縄美ら海水族館」が人気の沖縄県、和歌山県は「アドベンチャーワールド」や「サファリパーク」で支持率アップ。

全国的に、テーマパークと並んで、水族館・動物園、自然体験ができる施設などの支持が高まっている様子がみられる。前年度15位だった大分県はサファリパーク、テーマパーク、地獄めぐりなどが挙げられて7位に。前年27位だった岩手県も8位に躍進。牧場や、「けんじワールド」などが挙げられていた。

2010 順位		2009 順位	
全体平均	22.2	全体平均	21.4
1位 千葉県	61.2	1位 千葉県	64.5
2位 沖縄県	37.8	2位 沖縄県	43.2
3位 和歌山県	37.3	3位 和歌山県	34.9
4位 三重県	36.9	4位 三重県	33.0
5位 栃木県	27.6	5位 大阪府	29.0
5位 大阪府	27.6	6位 栃木県	27.7
7位 大分県	25.5	7位 長崎県	27.0
8位 岩手県	25.3	8位 熊本県	25.0
9位 山梨県	25.0	9位 東京都	24.2
10位 東京都	24.5	10位 山梨県	23.7

■若者が楽しめるスポットや施設が多かった

ー 1位:千葉県、2位:沖縄県、3位:大阪府

上位の顔ぶれは前年度とほぼ変わらず。テーマパークとショッピングが強い都市部と、スポーツを売りにした旅行先が上位にランクイン。

全体の傾向として、街歩き、ショッピングエリア(アウトレット、街の名前など)やカラオケ・アミューズメント施設も多く挙げられている。テーマパーク、水族館・動物園、温泉、神社仏閣と並んで、野球場やスポーツ(ゴルフ、スキー、マリンスポーツなど)も挙げられていた。

2010 順位		2009 順位	
全体平均	27.0	全体平均	26.4
1位 千葉県	57.5	1位 千葉県	61.0
2位 沖縄県	54.8	2位 沖縄県	58.4
3位 大阪府	45.9	3位 大阪府	47.1
4位 東京都	44.9	4位 東京都	46.0
5位 福岡県	39.9	5位 福岡県	38.0
6位 神奈川県	33.8	6位 神奈川県	31.7
7位 三重県	28.9	7位 兵庫県	31.0
8位 北海道	28.1	8位 長崎県	28.0
9位 兵庫県	27.7	9位 三重県	26.9
10位 長野県	26.7	10位 長野県	25.2
		10位 和歌山県	25.2

■大人が楽しめるスポットや施設が多かった

ー 1位:京都府、2位:沖縄県、3位:千葉県

京都府が前年度3位から浮上し、4年ぶりに第1位奪還。「寺院」「神社仏閣」や「祇園」の人气が高い。全体的に文化を感じられる街歩きが人気の様子。

全体の傾向として多岐にわたるスポットや施設が挙げられている。名所・旧跡や自然園、テーマパーク、美術館、温泉、街歩きしやすいエリアを挙げる回答が目立つ。大分県は、温泉や自然公園が挙げられ、前年の17位から9位にランクアップ。

2010 順位		2009 順位	
全体平均	43.0	全体平均	41.3
1位 京都府	63.5	1位 沖縄県	59.3
2位 沖縄県	57.3	2位 千葉県	59.2
3位 千葉県	55.7	3位 京都府	58.5
4位 奈良県	54.6	4位 奈良県	54.5
5位 東京都	50.2	5位 東京都	50.6
6位 神奈川県	48.6	6位 大阪府	47.8
7位 大阪府	48.5	7位 神奈川県	47.3
8位 福岡県	48.4	8位 福岡県	45.7
9位 大分県	46.6	9位 長崎県	44.3
10位 三重県	45.9	10位 三重県	43.7

<ランキングの算出方法>

※集計は各都道府県への延べ宿泊旅行件数がベース

- ①各テーマに関し、訪問した都道府県の評価を「そう思う」「ややそう思う」「ふつう」「あまりそう思わない」「そう思わない」の5段階から選択。
- ②「そう思う」「ややそう思う」計の割合が多い順にランキングしている。

<コメントの回答方法>

「そう思う」「ややそう思う」と回答した設問に任意でフリーコメントを記入。

※対象設問:「地元ならではのおいしい食べ物が多かった」「魅力のある特産品や土産物が多かった」「魅力的な宿泊施設が多かった」「子供が楽しめるスポットや施設が多かった」「若者が楽しめるスポットや施設が多かった」「大人が楽しめるスポットや施設が多かった」「地元のホスピタリティを感じた」を今回より追加。

<参考>宿泊旅行の目的

※ベース:延べ宿泊旅行件数(複数回答)。上位10項目(その他以外)抜粋

(%)

宿泊旅行の目的(複数回答)	[10年]	[09年]
温泉や露天風呂	34.3	36.0
地元の美味しいものを食べる	33.9	34.4
名所、旧跡の観光	30.7	29.7
宿でのんびり過ごす	28.0	28.7
まちあるき、都市散策	17.6	16.9
友人・親戚を訪ねる	14.2	14.1
テーマパーク(遊園地、動物園、博物館など)	13.8	13.6
買い物、アウトレット	12.0	11.4
花見や紅葉などの自然鑑賞	10.4	10.7
ドライブ・ツーリング	6.1	6.3